

番号	区分	ページ	章番号	施策番号	施策名など	意見、修正内容	趣旨	対応	修正前	修正案	担当課	意見提出者	分科会	
1	意見	59 ～69	3		3章全般	【3章全般に対して】(3-1.3-2.3-4.3-5) 少子高齢化が社会の大きな問題となっていることを踏まえ、今後の福祉の未来環境を整えていくために「協働」におけるパブリックインボルブメントを行い、行政との連携を図れるよう様々な面で橋渡しができる機関として、「ファンリテーター」の育成の場を力を入れるべきではないか。 行政職員は、どうしても2～3年で異動となる。市民にとって一番の難関は、担当者の異動により次の担当者への引継ぎがうまくいかない事である。そのような事を考えると、色々な問題等に関する官民を取り持つコーディネーターが必要ではないか。特に、福祉に関しては、よりよいサービスを提供するためには、コーディネーターを継続して育成していく場を設ける事が重要ではないかと考える。計画書の修正ではなく、提案として聞いて頂きたい。	少子高齢化が社会の大きな問題となっていることを踏まえ、今後の福祉の未来環境を整えていくために「協働」におけるパブリックインボルブメントを行い、行政との連携を図れるよう様々な面で橋渡しができる機関として、「ファンリテーター」の育成の場を力を入れるべきではないか。	市民参画、パブリックインボルブメントが効果的なものであるということは、認識している。また、効果的なコミュニケーションや多様な考えをまとめていく事、施策の実行に向けた役割を担うためにもファンリテーターが有意義なものであるという認識もある。具体的などのようにするのかという個別の事項に関しては、今後検討していくものと考えている。					宮崎順子	保健福祉
2	意見	62	3	2	住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者福祉の充実	【取組方針】 高齢者が生きがいをもって、住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者福祉の充実 ～ 【取組方針】 高齢者が生きがいをもって、住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者福祉の充実 ～ 【取組（基本事業）概要】 3-2-1在宅生活・地域生活への支援 住み慣れた地域において、在宅で充実・自立した生活を送ることができるよう、外出や家事支援など、高齢者の日常生活を支援します。また、高齢者を地域で支える体制づくりを推進します。	高齢者が住み慣れた地域の中で安心して暮らし続けるためには、在宅医療と介護の連携が欠かせず、今後、医師会レベルでの連携の仕組みづくりが課題となるため。	可能な限り、住み慣れた地域で生活するためには、今後、地域の特性に応じた医療・介護・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される仕組みづくりが必要となる。特に、医療・介護関係機関の連携による、在宅医療・介護が重要であると認識している。身体や生活の状況に応じた適切な医療・介護が提供されるように包括的な仕組みづくりを推進することを方針とし、その中で、在宅医療・介護の連携を取組事業に盛り込みたい。	【取組方針】 高齢者が生きがいをもって、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにするため、高齢者の生活支援を推進するとともに、 医療と介護の連携をすすめる 、地域で支える体制を整えます。～ 【取組（基本事業）概要】 3-2-1在宅生活・地域生活への支援 住み慣れた地域において、在宅で充実・自立した生活を送ることができるよう、外出や家事支援など、高齢者の日常生活を支援します。また、高齢者を地域で支える体制づくりを推進します。		高齢福祉課	中本正一 (議員)	保健福祉	
3	意見	63	3	3	共生社会をめざす障がい者福祉の充実	■成果指標と目標値 「3-3-2社会参加への支援」に該当するの成果指標と目標値がない。評価する必要があると思うが、どう評価するのか検討して欲しい。	「3-3-1地域生活への支援」に対応した成果指標が「グループホームにて自立した生活をしている人数」、「3-3-3就労への支援」に対応した成果指標が「福祉的就労支援を受ける人数」とすると、「3-3-2社会参加への支援」に該当するの成果指標と目標値がない。	社会参加の支援については、移動支援事業やコミュニケーション支援事業など、手段が様々である。個別事業において、それぞれ利用率や満足度など、目標を定めて実施しているものの、総合的な目標となる適当な指標項目の設定は困難である。			障がい福祉課	山下秀一	保健福祉	
4	意見	64	3	3	共生社会をめざす障がい者福祉の充実	【取組方針】3-3-3 一人でも多くの障がい者が就労できるよう、国や県の各関係機関・窓口と連携を強化します。また、一般就労が困難と思われる障がい者については、福祉的就労の場を確保し、障がい者優先調達推進法等により、障がい者の経済基盤の確立に寄与する取組の充実を図ります。	・朱書き部分の追加、見直し部分カット ・佐賀市としてもメインとなる施策をひとつくらい固有な詞を入れて具体的に示した方がいいのでは。	記載表現を再検討する。	一人でも多くの障がい者が就労できるよう、国や県の各関係機関・窓口と連携を強化します。また、一般就労が困難と思われる障がい者については、福祉的就労の場を確保し、障がい者の経済基盤の確立に寄与する取組の充実を図ります。	一人でも多くの障がい者が就労できるよう、国や県の各関係機関・窓口と連携を強化します。また、一般就労が困難と思われる障がい者については、福祉的就労の場を確保するとともに、障がい者就労施設等からの物品調達を推進するなど、障がい者の経済基盤の強化に努めます。	障がい福祉課	片淵賢司	保健福祉	
5	意見	65	3	4	健康づくりの推進と保健・医療の連携	【背景】 「生活の質を確保できるような健康づくりが求められています」は、「生活の質を良質に確保できるような健康づくりが求められています」の方がいいのではないかと。	「生活の質」だけでは、良いか悪いのかが、わかりにくいと思う。	記載表現を再検討する。	ライフスタイルの変化により、生活習慣病や心の病は増加傾向にあり、医療費や市民の生活の質に大きな影響を与えています。このため、生活習慣病の発症予防や重症化予防などに視点を置いた市民の健康づくりが求められています。	ライフスタイルの変化により、生活習慣病や心の病は増加傾向にあり、医療費や市民の生活の質に大きな影響を与えています。このため、生活習慣病の発症予防や重症化予防などに視点を置いた市民の健康づくりが求められています。	健康づくり課	溝西由宇子	保健福祉	
6	意見	68	3	5	健康づくりの推進と保健・医療の連携	■成果指標と目標値 成果指標の表現を分かりやすく再考した方がよいのではないかと。	「生活保護受給者の自立支援対象者」という表現では、総合計画として、公表された時に、生活保護者全体が分母と誤解されやすい。	「生活保護受給者の自立支援対象者」という表現を「就労支援を受けている生活保護受給者」に改め、分かりやすい表現に変更する。	成果指標「生活保護受給者の自立支援対象者のうち、収入増が図られた人の割合」	成果指標「就労支援を受けている生活保護受給者のうち、収入増が図られた人の割合」	生活福祉課	白木紀好	保健福祉	